第2章　話し合いの結果と市民からの提案

この章においては、まちづくりディスカッションの話し合いの結果をまとめ、市民からの提案の内容について述べる。

Ⅰ　市民からの提案内容

「基本計画改定に向けたまちづくりディスカッション」においては前回の「まちづくりディスカッション2006」の検証・評価を踏まえて、話し合いを3回行うプログラムが組まれた。

第1回話し合いをイントロダクションとして位置づけ、初対面であることの緊張を解きほぐすと同時に「三鷹の魅力」という性別、世代、居住地域を越えて意識を共有しやすい討議テーマとすることで 2日目の個別テーマの話し合いにスムーズに入っていけるよう工夫した。2日目は、課題抽出と課題を解決するためのアイデアについての話し合いへの流れを重視した結果、防災のテーマも高齢者のテーマも情報提供についてはそれぞれ1回にまとめて行った。その結果、2回目と3回目の話し合いの間の小休止時間にグループメンバーの入れ替えを行い、続けて話し合いに入るという構成となった。話し合いは、特に問題もなくスムーズに進み、それぞれの話し合いから提案が出された。

ジブリの活用を期待する声は多く、情報に対する不安、道路事情に対する不満やコミュニティの重要さなどの意見が出された。特に、情報や道路に関する提案は、複数のテーマで話題に上がるほど市民生活における影響及び関心の高さが現れている。

⑴　**みたかの魅力について**

緑・自然に恵まれているが、その保全等配慮が必要で、コミュニティバス等きめの細やかな公共交通が望まれている。

⑵　**災害に強いまち**

避難経路・場所や支援物資の確保のほか、誰でも正しい情報を入手できる状況が望まれている。

⑶　**高齢者にも暮らしやすいまち**

地域や異世代とのコミュニケーションの機会、医療情報や道路に代表されるインフラ整備が望まれている。

また、それぞれの話し合いで出された意見やその分類などについての詳細は 15 ページから記載してある。

Ⅱ　分析方法

作業シート（9 ページ参照）に貼られたシールが多い意見が、参加者の共感を得た意見という風に捉え、得票数が多い順に順位をつけ、分類的に同じと思われるものを集めて得票率として表記した。分類の項目は、今回のまちづくりディスカッションが基本計画への市民意見の反映が目的であることから、概ね基本計画の体系に沿った分類としている。第4章に掲載している計画への反映の一覧表は、計画に反映させる上で、分類上類似の意見及び対応が同じになる意見をまとめる形で記載している。

また、平成19年11月15日（木）開催の中間報告会の際に分類について報告をし、市民意見対応表の分類についても、出席者（まちづくりディスカッション参加者49人中10人が出席）から併せて了承を得ている。

Ⅲ　テーマごとの話し合いの結果と内容

【第1回話し合い】

あなたにとって三鷹の魅力は何ですか？それを伸ばすアイデアをまとめてください。

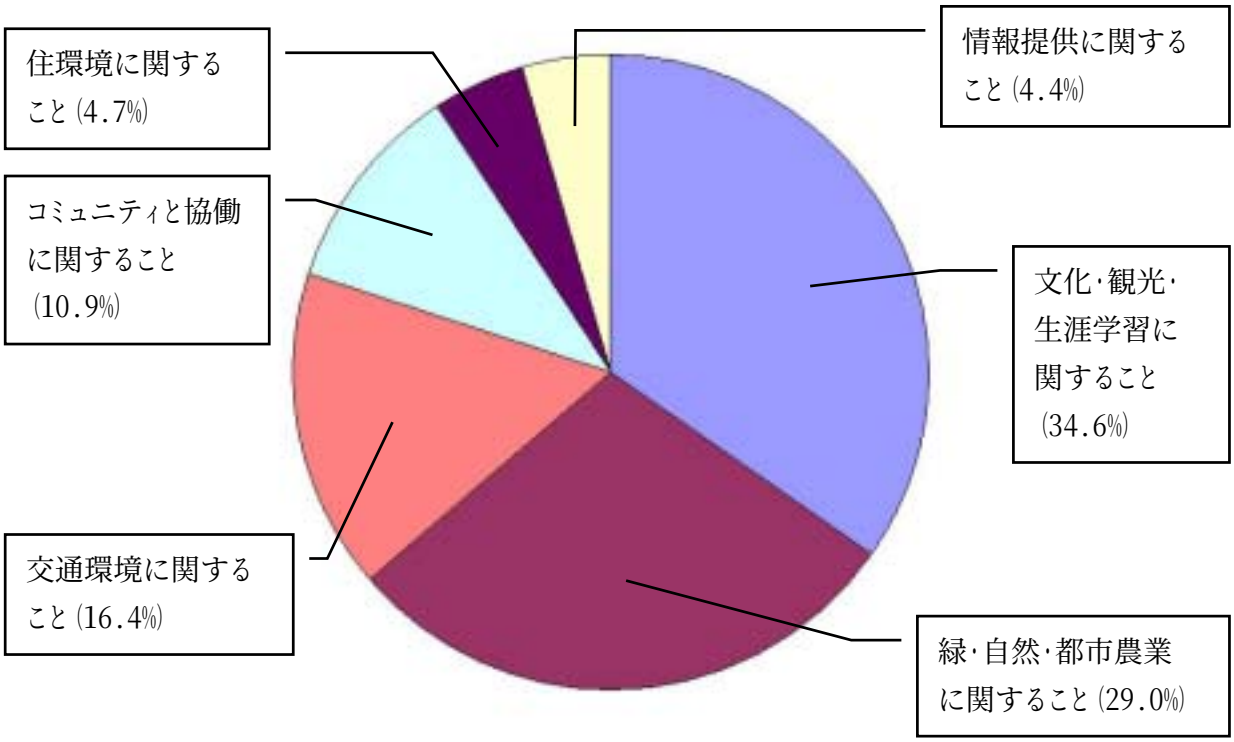
> 文化･スポーツ施設が多く、緑･自然環境に恵まれている。大いに活用しより一層保全等に配慮する必要がある。公共交通も発達しているがコミュニティバス等できめ細かく充実を図る。コミュニティではＰＲ等も工夫してさらに活性化させ、結びつきを強める。

第1回の話し合いの投票結果は、「文化･観光･生涯学習に関すること」が全体の 3 割を占め、次いで「緑･自然･都市農業に関すること」が魅力と感じる人も 30%近くにのぼった。三鷹市では基本計画において都市型産業や都市型農業の育成を掲げているが、アニメーションを媒体とした経済効果の拡大や、農地保全に関することが三鷹の魅力であると同時に課題でもあると市民意見として明確に示された形となっている。どのカテゴリーにおいても魅力について「もっと PR を行うべき」といった意見が見られた。

都市基盤における道路の問題は高齢者のテーマにおいても出されているが、この話し合いの中では交通環境について高評価であった。そしてコミュニティ交通の現状を評価しながらも、さらなる路線拡大や増便を望む声が見られた。

どのカテゴリーも、近隣の自治体と数値だけで比較すれば優位性を見いだせるわけではないが、主観的な市民感覚としては「魅力」となり得る水準を維持しており、その保全や拡充を求める。

●三鷹の魅力とそれを伸ばすアイデア



●第１回話し合いの残したい意見

富士山が見える⇒富士山が見える場所MAPを作る／野川の自然を残す／路面電車がほしい／市内のバス網の整備（北野･大沢などは便が悪い）／シャトルバス（公共の交通手段）の増加／シティバスの順路を考えてもらいたい／道路と歩道をもっと整備して自動車の通行制限をしてほしい／自転車専用道路がほしい／高い建物をこれ以上つくらない／在宅看護するため往診可能な医者の育成／医療費を使わない人に対する褒美があるとよいのでは？／更なる治安（街路灯をもっと明るく）／ごみ分別の対応がよい／井の頭公園の利用者にもっと三鷹にお金を落としてほしい／ジブリの森がある⇒実は三鷹市にある！ということを抱き合わせで宣伝する／ジブリのような観光施設（若者･子ども向け）をもっと増やす

●第1回話し合いの分析結果

魅力とアイデア	得票数	計	得票率
○文化･観光･生涯学習に関すること			
トトロを使わせてください ⇒ 三鷹のシンボルとして、ジブリに協力をお願い （道路の名前や音楽を流したり、駅前にトトロの像を置く）	26	118	34.6%
文化施設（入場料金の安さ）	15		
古い歴史的施設の保存	15		
文化観光スポットマップを駅前につくってください ⇒ 山本有三文庫、桜桃碑など	14		
ジブリの経済効果の拡大	14		
文化･スポーツ施設が多い ⇒ 現状維持ともう少し利用しやすいようにアピールしてほしい	13		
（文化）史跡･文化施設･大学などが多い ⇒ 研究施設などの市民への公開を増やす	10		
大学と市の提携を強める ⇒ 大学の多いまち、講座の開放	10		
○緑･自然･都市農業に関すること			
住宅地と農地の共存 ⇒ 農業を続けられる政策	19	99	19.9%
自然が多いのが魅力なので、緑を大切にしていくこと ⇒ どうしたらよいか、とくに夏の暑さ（1.放送を使った水撒き 2.アスファルトに水を浸透するもの、熱を吸収しないもの 3.屋上の緑化、塀の緑化）	15		
緑が多い（維持するため各家庭でも緑を増やす）	14		
（自然）玉川上水などの緑、自然、生産緑地が多い ⇒ 自治体が積極的に補助、市民農園などへの転化（農地などを借り上げて）	14		
遊休農地を市又は農協が借り上げ希望者に耕作、運営にあたらせる	14		
自然が豊か（イチョウ）東大の開放ＰＲ	10		
身近な自然環境 ⇒ ミニ公園等増やす	8		
緑が多い（公共施設、保存樹） ⇒ 緑を大切にする一人一人のモラル	5		
○交通環境に関すること			
交通の便がいい ⇒ 南北の電車線の実現	25	56	16.4%
シティバスの運行（増便、料金、コース）	16		
交通の便がいいのに自然が多い ⇒ コミュニティバスの路線拡大を	13		
公共交通が発達している	2		
○コミュニティと協働に関すること			
歩こうごみゼロ運動などに地域参加を求め体を動かそうとする	16	37	10.9%
コミュニティイベントが盛ん（お祭り） ⇒ スポーツ施設を増やす、高齢者･身障者のふれあいの場を増やす	12		
ご近所の結びつきが強い ⇒ 引っ越してきた方への配慮（地域の交流のお知らせを配るなど）	6		
コミュニティセンターをもっと利用するためのＰＲ	5		
○住環境に関すること			
（生活）福祉がよいベッドタウンとして良好 ⇒ 財源確保のための企業誘致、若い人の住民を増やす	16	16	4.7%
○情報提供に関すること			
三鷹を好きになるきっかけが多い ⇒ ホームページの充実	15	15	4.4%
合　　計	341	341	100.0%

【第2回話し合い　（災害に強いまち）　】

大地震が来たとき、あなたの身の回りではどんなことが心配ですか？

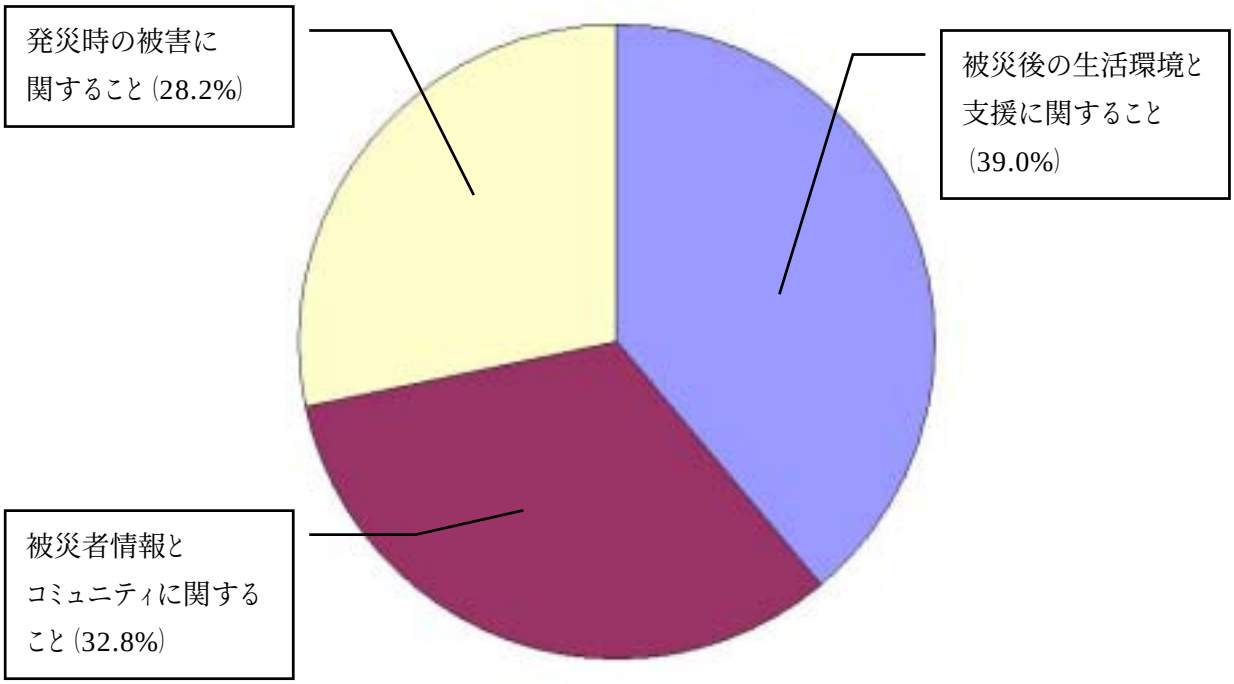
障がい者、健常者、年齢差等を問わず、誰でも被害状況や救援･支援等の正しい情報が容易に入手できるようにして2 次･3 次災害の発生を防止する。また、避難経路･避難場所や支援物資の確保が重要である。

第2回の話し合いでは、テーマが「災害時の課題＝身の回りで心配なことを出してください。」という内容であったことから、日常生活から見た不安について話し合いが行われた。

被災後の生活環境に関する心配が全体の4割を占め、次いで被災者の情報に関することやコミュニティに関することが心配な点として上げられた。家屋の倒壊など地震の直接的な被害そのものに関することが3番目に続いた。どのカテゴリーにおいても、災害弱者に対する視点が盛り込まれ、また、ライフラインの確保も同様に複数のカテゴリーに現れており、阪神淡路大震災以降の都市型災害での情報や教訓から心配な項目が挙げられているものと思われる。

個別の意見では「2次被害･3次被害」に対しての心配が2番目に多くの票を集め、風評被害やモラル低下による被害の発生に関心が高く、根底には正確な情報伝達に対する危機感が伺えるが、最も得票率の高かった「まとめ」も情報に関することであり、ひとたび大震災が発生すれば障がいのあるなしや年齢にかかわらず正しくて確実な情報が最も重要であると考えている傾向が示された。

●大地震が来たとき、あなたの身の回りで心配なこと



●第2回話し合い（災害に強いまち）の分析結果

	課題	得票数	順位	計	得票率
身の回りで心配なこと	○被災後の生活環境と支援に関すること				
	2 次、3 次災害 ⇒ 風評・モラルの低下・はんざい増加	23	2	69	39.0%
	災害後の救護物資の運搬方法の確保	13	6		
	避難後の物資供給と生活環境及び災害弱者へのケア	12	9		
	昼間と休日・夜間では対策法が違ってしまう	11	10		
	生活・医療・家族 ⇒ 避難場所の確保・ライフライン・けが人の運搬・家族の連絡	10	11		
	○被災者情報とコミュニティに関すること				
	障がい者、健常者ともに正確な情報を確保できるのか	26	1	58	32.8%
	若者、お年寄りすべての人が参加できるコミュニティを！	16	3		
	家族の安否 ⇒ 情報伝達は？	16	3		
	○発災時の被害に関すること				
	家屋倒壊の心配 ⇒ まず生きていることが大事！	16	3	50	28.2%
	地震による家屋の倒壊や火災による被害と避難経路の確保	13	6		
	ライフラインの心配 ⇒ 発生時、復旧時	13	6		
	災害もろもろ ⇒ 身にふりかかる災害の恐怖（火災、倒壊、土砂崩れ）	8	12		
合　　計		177		177	100.0%

●第2回話し合い（災害に強いまち）の残したい意見

危険な場所の管理／ペットの扱い／衛生問題／町会へ入っていない人への対応／避難場所を良く知らない、どこの病院に行けばよいかわからない／三鷹には近くに飛行場あり（空からの空輸はどうか）／ITといっても現実には高齢者には使いづらい／弱者に対する対応への配慮

話し合いの様子

【第 3 回話し合い （災害に強いまち） 】

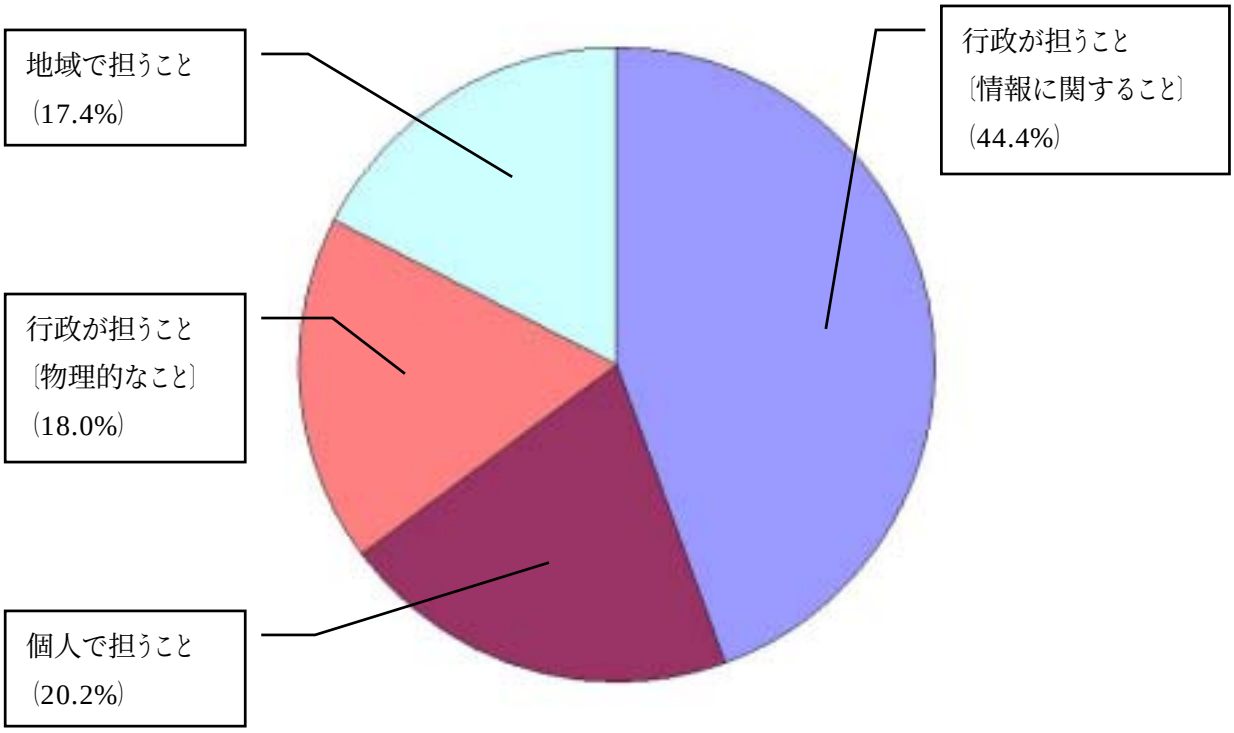
大地震に備えてどのようなことをしたらよいと思いますか？

> 行政は物理的な災害対策にも増して、まず正確で分かりやすい情報発信が必要である。
> 個人としては物資の備えとともに、日常コミュニティとの接点強化を図っておく。

対策に関しては直接的に「行政が担うこと」とされたものが6割程度となったが、中でも「情報に関すること」は45％近い多さを誇り、行政が担うべきであると期待する物理的なことに関するカテゴリーの2倍以上の数値となった。これは新たな情報インフラの整備に期待するものというよりは、現在整備した防災対策（避難場所等）の情報を、現実的な媒体でもっと効果的に広報するよう求めるものが半分を超える一方で、言葉のインパクトによるものか、個人情報保護の気運が高まる時勢の中で災害時に個人を特定しやすくすることで被災後に役立てるIDを自己申告により整備するという意見が単独で2割弱の票を集めた。

「個人で担うこと」や、「地域で担うこと」に関してのアイデアもそれぞれ20％程度出されており、今回のまちづくりディスカッションのテーマが基本計画改定に対するものであったにもかかわらず、自助･共助の視点についても物理的に行政が担うべきものと同等の比重で意見が出されている。

●大地震に備えてしたらよいと思うこと



●第3回話し合い（災害に強いまち）の分析結果

	アイデア（提案）	得票数	順位	計	得票率
大地震にそなえてしておくとよいこと	○行政が担うこと　（情報に関すること）				
	災害時自己申告IDを用意する	35	1	79	44.4%
	市の災害時の対応を全市民に具体的に知らせる ⇒ 避難場所のキャパシティがわからない	17	4		
	各家庭にわかりやすく年１度くらい災害のお知らせを配布してほしい	17	4		
	災害後の混乱を避けるため、災害情報を書いたビラをヘリでばらまく	10	8		
	○個人で担うこと				
	生き残るために壊れない家をつくる	18	3	36	20.2%
	個人で日頃から災害に備える準備をする ⇒ 病歴の人の投薬等・非難袋、消火器等、非難場所、家族の連絡	10	8		
	各家庭での備えをする	8	11		
	○行政が担うこと　（物理的なこと）				
	市への要望古い（建物の把握）危険場所への対処	22	2	32	18.0%
	非常食の充実（乾パン以外）	10	8		
	○地域で担うこと				
	避難後の生活環境確保のためのコミュニティ強化	13	6	31	17.4%
	災害に備えて各家庭で３日分くらいの食料等確保し近所とのコミュニケーションを図る	12	7		
	地域の結束を強めて行動をとる	6	12		
合　　計		178		178	100.0%

●第3回話し合い（災害に強いまち）の残したい意見

「大災害なんて自分の生きている間には起こらない」なんていう考えを日常もたない／危機感を持つ／全員が被災者認識／非常食を食して災害時の体験を試みる／消火器の販売／平日昼間の人口分布は？（シミュレーションをしてほしい）／伝染病等による薬の確保のお願い／アレルギー患者など持病保持者保護場所／精神的後遺症に対するアフターケア／道路の拡大

発表の様子

【第2回話し合い　（高齢者にも暮らしやすいまち）】

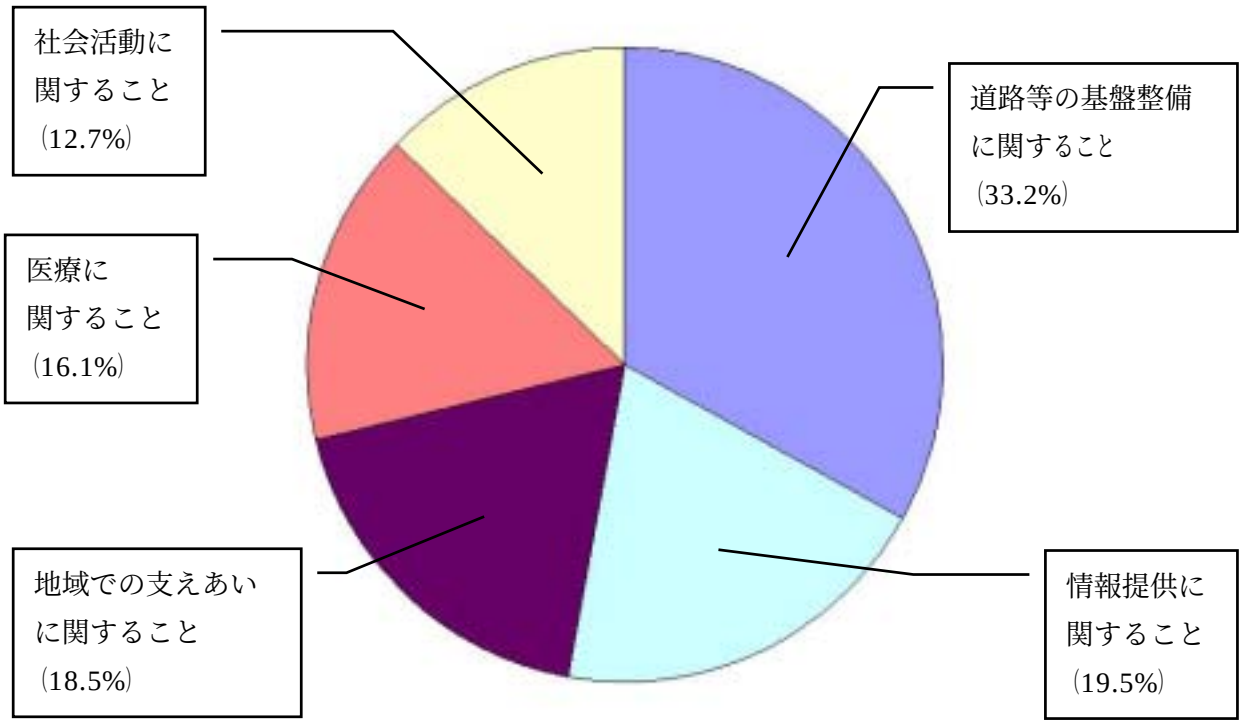
高齢者が「暮らしにくい」と感じるのはどんなことだと思いますか？

> 基本的に道路事情が悪く、歩道も狭く歩きにくいうえに自転車も通り危ない。近隣商店の減少、地域とのつながりや人間関係の希薄化、医療関係の情報不足等々で社会的孤立を感じている。生きがいを高めるようにすることが肝要。

暮らしにくいと感じる要因として狭い道路や近隣商店の減少など都市基盤に対する「道路等の基盤整備に関すること」が全体の3分の1を占めた。直接的に自転車が危険であるとした意見以外にも、道路・交通に関係する意見の中でも自転車の乗り方やマナーに関するものが見られた。歩道が狭いことや段差が気になることなど構造的な問題だけでなく、標識に関することや簡単に腰掛けられる設備など付帯的なものや自転車に関することなどの道路の使い方の問題まで意見が出された。

次いで「情報提供に関すること」として、必要なときに必要な情報を入手するための仕組みづくりができていないため困ったときなどにどうしたら良いのか分からないという不安を訴える意見に2割弱の票が集まった。3番目には「地域での支えあいに関すること」が位置し、次いで「医療に関すること」と「社会活動に関すること」が4番目、5番目と続くが、ともに互いの距離のことや集う場所の問題など直接的・物理的な問題と、情報のつながりや社会との接点などの機会に関するものが課題として出された。

●高齢者が暮らしにくいと感じること



●第2回話し合い（高齢者にも暮らしやすいまち）の分析結果

	課題		得票数	順位	計	得票率
高齢者が暮らしにくいと感じること	○道路等の基盤整備に関すること					
	自転車が危ない	歩道がせまい	15	5	68	33.2%
	日常生活の不便	交通：歩きにくい道路、 バスなどの交通手段（通院） 買い物：物価が高い、店が少ない	13	9		
	道路事情が悪い	段差、自転車、標識	12	10		
	道路（歩道）環境が悪い	歩きづらい、危ない、自転車	11	11		
	近所の商店がなくなり買い物が不便		9	12		
	ハード面の整備がやさしくない	これから！！もともと高齢者を想定したまちづくりになっていない	8	14		
	○情報提供に関すること					
	死亡したときの不安が常にある	火葬場、葬式	22	1	40	19.5%
	助けてほしいときの手段がわからない		18	3		
	○地域での支えあいに関すること					
	社会的孤立	人とのつながり：相手・場所がない 行政とのつながり：情報の周知の不十分、一方的	15	5	38	18.5%
	人間関係が薄れてきている	思いやりがたりない	14	8		
	地域の安全安心面が心配		9	12		
	○医療に関すること					
	生活環境の問題	医療費の優遇、蚊が多い、老人ホーム	18	3	33	16.1%
	近くの病院に長期入院できない		15	5		
	○社会活動に関すること					
	生きがい	社会とのつながり： 社会貢献の機会がない 余暇の充実： 学習や趣味の機会や施設	19	2	26	12.7%
	シニアの生活情報の改善	集う場所、能力をいかす場所	7	15		
合　計			205		205	100.0%

●第2回話し合い（高齢者にも暮らしやすいまち）の残したい意見

医療費の市からの優遇措置／高齢者への支援、介護をする人たちへの支援／ユニバーサルデザインがない、きれいなのは駅前だけ／道路にちょっと腰をかけられるようなものが少ない／自転車の走り方のマナーが悪い／仕事をしている高齢者が優遇されない（起業のチャンス）／ボランティア→地域通貨がない

【第3回話し合い　（高齢者にも暮らしやすいまち）】

高齢者にとって暮らしやすくするためにはどのようにすれば良いでしょう？

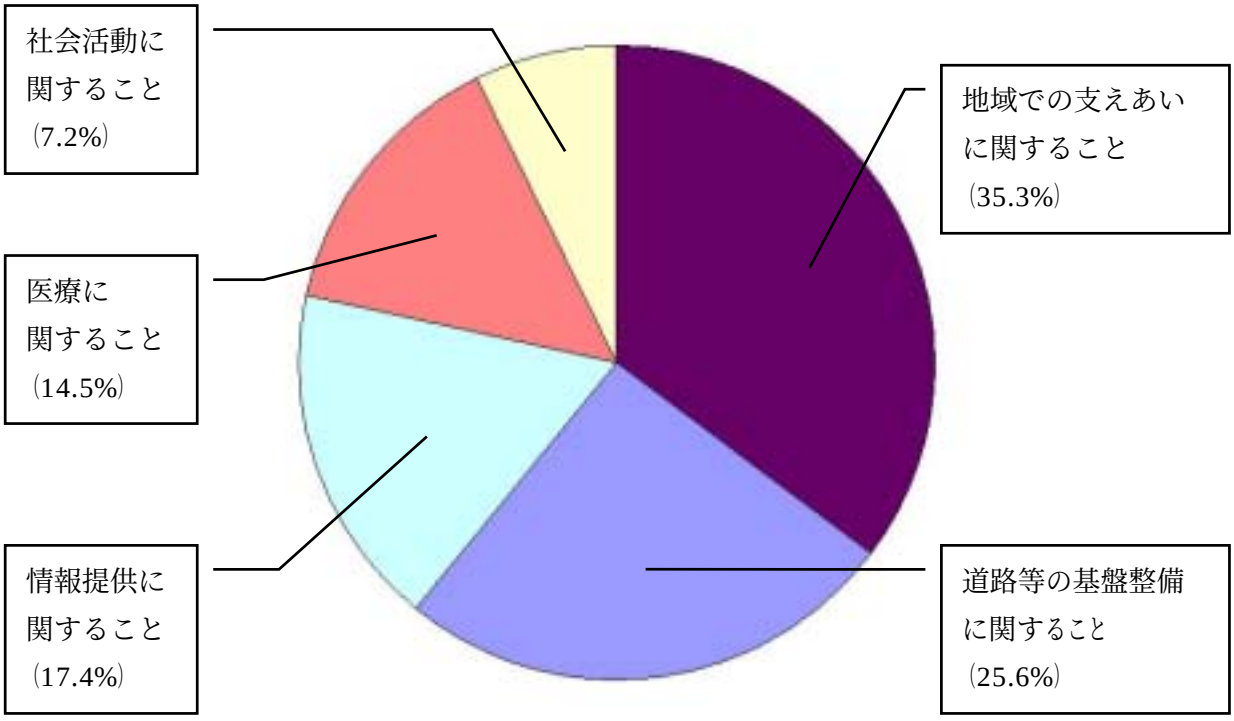
なによりも地域コミュニティの回復が重要。支えあい、異世代との交流を増やし孤立を防止する。高齢者に届く広報活動で、利用可能なサービス等の情報を分かりやすく提供する。高齢者の目線でのインフラ整備を図る必要がある。

課題に対して解決のためのアイデアでは順位が変動し、「地域での支えあいに関すること」が「道路等の基盤整備に関すること」に10ポイント近い差をつけて首位となった。都市基盤の整備に関しては行政への要望といった色彩が強くなるが、そうしたものよりも自らの行動力や発想力によって課題を解決していこうという意見に票が集まる結果となった。2番目となった「道路等の基盤の整備に関すること」以降の順位に変動はなかった。

個別に見れば、この話し合いの回でも、情報提供（特に行政の窓口や広報等）についての意見が重要とされ、単独意見としては「高齢者に届く広報活動」という見やすく分かりやすい情報を求めるものに最多の票が集まる結果となった。1番多かった「地域での支え合いに関すること」では異世代交流を主軸とした意見が多く、これは5番目の「社会活動に関すること」においても異世代との接点（場所）の設置という意見が出され、残したい意見の中にも世代間交流についての意見は見られた。

道路等に関しては、課題として幅員や段差など構造的な問題が指摘されたが、解決のためのアイデアは「歩行者優先」や「細やかな交通システム」など運用面での意見が出され、より実現性の高さを求めた結果となった。

●高齢者にとって暮らしやすくするために



●第3回話し合い（高齢者にも暮らしやすいまち）の分析結果

	アイデア（提案）		得票数	順位	計	得票率
高齢者にとって暮らしやすくするために	○地域での支えあいに関すること					
	支える人たちの支援	ボランティア支援	22	2	73	35.3%
	孤立を防ぐ		16	4		
	自立生活基盤の支援	小学校の空き教室利用、 情報伝達の手段（緊急時）、 行政への市民参加	16	4		
	公園の活性化	高齢者、児童のふれあい	12	9		
	近所の連携	回覧板を回す、 マンションに住む高齢者への配慮	7	15		
	○道路等の基盤整備に関すること					
	高齢者のためのインフラ整備	移動手段の確保、高齢者が安心して生活できるシルバーピア（市で）	13	7	53	25.6%
	道路整備	歩行者優先道路、 雨水のしみこむ道路	12	9		
	地域差の改善	交通手段、買い物（店）	11	12		
	道路の安全と足の便		9	13		
	細やかな交通システム		8	14		
	○情報提供に関すること					
	高齢者に届く広報活動	読みやすい広報誌、分かりやすいＰＲ	24	1	36	17.4%
	ヘルプ窓口		12	9		
	○医療に関すること					
	医療費の軽減	1 万円の医療費より 100 円の予防	17	3	30	14.5%
	医療システムの充実	非常ベルの貸し出し（無料）、 介護タクシーの無料チケット	13	7		
	○社会活動に関すること					
	参加しやすい場所づくり	ストリートカフェの設立、 高齢者と別の世代	15	6	15	7.2%
合　　計			207		207	100.0%

●第3回話し合い（高齢者にも暮らしやすいまち）の残したい意見

若い人との接触の機会をつくる／笑顔であいさつ／引越ししてきた高齢者への配慮／安否確認システム／市報の文字を大きく読みやすく／ユニバーサルデザインの市づくり／ソーラーシステムの助成／大きな文字の現在地ＭＡＰ／歩道を安心して歩けるようにする／働いている高齢者への優遇／医療費を使わない人への褒賞／ジェネリック医薬品を行政が進めてほしい（個人で進めにくい）